

『天邪鬼』

『天邪鬼』 作・中屋敷法仁

【登場人物】

あまの・じゅんや
しょうじ・きよし
ひより・みづき
なな・ひかる
しりた・いぞう
おま・せなこ

舞台上に「あまのじゅんや（を演じる俳優）」が現れる。

あまの（を演じるべき俳優）

まだ開演時間ではありません。
まだ開演時間ではありません。

が、

開演前のお時間を頂戴し

お話させていたただきたいと

彼が

申しておりますので

彼が

お話させていただきます。

舞台上に「ななひかる（を演じる俳優）」が現れる。

ひかる（を演じるべき俳優）

遠路はるばる「青森」から

私の母が親に来ております。

私の母という人間は

私の舞台を楽しみにしており

遠路はるばる青森から

私の舞台を親に来ております。

そんな、私の母の為に、どうか

携帯電話の電源はお切りくださいませ。

私の母は、私の舞台の進行が

携帯電話の着信音や

バイブレーション機能により

妨げられるその瞬間は

「本当に胸が痛む」のだと、

「本当に心が痛む」のだと、

先ほど楽屋で私に、差し入れとして持参した

「カミキタ農産加工のスタミナ源たれ」

を手渡しながら申しておりました。

私の母の為に、どうか、還暦をとうに迎えた

青森の母の為に、どうか

携帯電話の電源はお切りくださいませよう

改めて、お願い申し上げます。

「ななひかる（を演じる俳優）」が立ち去る。

あまの（を演じるべき俳優）

開演前のお時間を頂戴し

彼が、お話させていただきました。

彼は、あのように申してはおりましたが、

私としては、

携帯電話の電源は、お切りくださらなくて結構です。

私どものブタイの進行が

携帯電話の着信音や

バイブレーション機能により

妨げられたとしてもそれは、

仕方の無いこと。

さだめ。運命。ディステイニー。

どうぞ、ご安心くださいませ。

携帯電話の電源は

お切りくださらなくて結構です。

私どものブタイの進行が

携帯電話の着信音や

バイブレーション機能により

妨げられたその場合、

私どもの舞台の進行は

一旦ストップ、上演中止。

主催者・スタッフと協議の上、改めて

再開するかどうかの判断をお伝えいたします。

どうぞご安心くださいませ。

誰の胸が痛もうが、

誰の心が痛もうが、

携帯電話の電源は

お切りくださらなくても結構です。

ここには、

途中から、遅れてやってくる方もいるでしょうし。

途中で、どこかへ行ってしまう方もいるでしょう。

どうぞ、ご自由に、ご自由に。

来る者、拒まず。

去る者、追わず。

ここは、そういう場所なのだ。

まもなく現れるこのブタイのメンバーも

90分後にはここから消え去ります。

どうか何卒、皆様も
来る者、拒まず、去る者、追わず。
ここは、そういう場所なのだ。
その点、どうかご了承のほどを。

開演時間です。

この後も幾度か指摘されますが、
私が演じる劇中人物の語る内容には
明らかな虚偽の内容や矛盾が数多く含まれる事は
作者本人も認めております。
信用に足る存在ではないのだ。
その点、どうかご信頼のほどを。

このブタイのメンバーをお伝えします。

「おじいさん」「おばあさん」

「いぬ」「さる」「きじ」

そして僕が「桃太郎」。

どうして桃太郎という名前なのかというと、
実は僕、大きな桃から生まれたのですよ。

舞台の上には俳優たちが勢揃いしている。

【01】

ひかる ダメだな。

いぞう ダメか。

みづき ダメなの。

せなこ ダメね。

きよし 部隊長殿、直々の通信。

さすがに応答してくれると思ったが…。

なしのつぶてか、情けない。

やっぱり通信機器の故障なんじゃ…。

ところがどっこい、向こうさんからの連絡は来る。

何よそれ。シカトされてるってこと？

そうかもしれないが、意図がわからない。

いずれにしろ、国に帰ったら軍法会議だ。

やめましようよ。

ナメていやがるんだ。「五歳児」だと思って…。

きよし まあ、無事に帰れたら、そうしてください。

あまの 「どんぶらこ。どんぶらこ。川上から大きな桃が」…。

きよし もういいよ、部隊長。

この部隊のメンバーをお伝えします。

あまの 「桃から生まれた桃太郎」…。

きよし もういいよ。

部隊長「あまの・じゅんや」くん。

「ひより・みずき」

「なな・ひかる」

「しりた・いぞう」

「おま・せなこ」

そして僕が「しょうじ・きよし」。

以上6名。“かき組”です。

敵国軍の掃討、ならびに市街地の占拠は無事完了。

当初の作戦通り敗残兵の追撃を行う。

しかし、しかし、我々が別部隊から知り得た情報によれば

我が軍は想定外の被害を被り、もはや壊滅的とのこと。

全体の被害状況を確認したい。

…という通信を12時間前から5回送っているが、

どうして応答しない。

「軍法会議ものだぞ」みたいな、お決まりの台詞を僕が言う前に

ウンだのスンだの言ってくれ。

応答、願います。

みづき あんたも、言うようになったねえ。

きよし 言わなきゃ聞かない。

あまの 「この指とまれ。」

きよし (あまのに) わーい。とまるとまるとまれー。

一同 (皆に) よし、始めよう。そろそろ、むこうも反撃してくるぞ。

了解。

きよし (あまのに) 何するの？

あまの 『桃太郎』やる人、この指とまれ。

きよし また桃太郎？ お姫様が出る話にしてよ。

きよし わがまま言うな。『桃太郎』が一番、効率がいいんだ

せなこ 効率？

きよし 矛盾が生じにくく、破綻するリスクも少ない。

せなこ リスク？

いぞう 今夜くらいは、屋根の下で眠りたかったんだけどな。

みづき じゃあ『3匹の子ぶた』はどう？

せなこ 『3匹の子ぶた』？ ぶたなんて、あり得ないわ。

ひかる それに、オオカミ役はどうすんだよ？

みづき ひかる。『桃太郎』で犬を任されている、
あなたの名演技に期待したいわ。
みづき 最後は鍋で釜茹でか？
ひかる ……
みづき 素敵な夜になりそうだ。
せなこ 『シンデレラ』がいいんじゃない？ そして私がお姫様。
きよし いい加減にしろ。
何をやるのか、何になるのか、それを決めるのは僕たちじゃない。
そうだと？ あまのじゅんやくん。

一同、あまのじゅんやを見つめる。

あまの 『桃太郎』やる人、この指とまれ。
きよし 結局、桃太郎だ。
いぞう 準備しよう。
ひかる 遅れんな。
せなこ 『シンデレラ』がよかったわ。
みづき 『シンデレラ』がお好きなら、一人でどうぞご勝手に。お姫様。
あまの 『桃太郎』やる人、この指とまれ。

一同、あまのじゅんやの突き立てた人差し指に集う。
その瞬間、爆撃音が鳴り響く。

きよし 今夜、祖国から遠く離れたこの丘には
焼夷弾の雨が降り注ぎ
僕らの体は
骨の髄まで焼き尽くされるだろう。
『桃太郎』という名の
イマジネーションの防空壕へと潜り込み
敵軍の非情な反撃から
我と我が身を守り抜け。
一同 『桃太郎』やる人、この指とまれ。

劇場内は激しい空爆の音に包まれる。

【02】

きよし 全員無傷で済んだのは我々“かき組”だけだ。
さくら組、もも組、いちご組は全滅。
みかん組、メロン組は死傷者多数により解体。
その情報は確かなの？
みづき

きよし 国防長官閣下のお墨付きさ。
ひかる だったらどうして、こっちの通信に応答しない。
いぞう 作戦続行、ってことだろう。
きよし そういうことだ。『桃太郎』ができる僕たちだけで
ジャングルに逃げ込んだゲリラを追撃する。
せなこ 私たちだけで？ 援軍は？
きよし そんな情報は聞いていない。
せなこ 怖いわ。せめてメンバーの増員を要請しましょう。
みづき わたしは反対。無能なメンバーが加わることの方が怖いわ。
せなこ だって、私たちだけじゃ『桃太郎』しかできないのよ。
きよし あまの・じゅんやくん。どうだい？
あまの 『桃太郎』やる人、この指止まれ。
せなこ いくら頭数が増えたって、部隊長殿がこれじゃ変わらないか。
きよし 好みが偏りすぎてんのよ。
いぞう 物語に限られていることは問題じゃない。
安全なものを選択することこそ肝要だ。
言えてるな。ウソのようなホントのハナシだけど、
どこかの部隊がミュージカルに挑戦して、
あっさり全滅したらしい。その演目が何だと思う？
よりにもよって：『キヤッツ』だ。そりゃ全滅するよな。
笑えない「メモリー」ね。
『桃太郎』やる人、この指とまれ。
今日も明日も『桃太郎』：幸せすぎて反吐が出るわ。
お言葉遣いにはお気をつけなさって。お姫様。
お姫様としての私の魅力。あんたたち五歳児にわかるわけないか。
君も五歳じゃないか。
文句があるなら、よその部隊に行きたまえ。
私無しで？ 私が、キジをやらないで？
あんたたちだけで『桃太郎』ができるの？
あ、できるかもしれない。
…え？
おじいさんが、とちゅうで、きじをやれば、
できるかもしれない。
はじめ、おじいさんだったひとが、とちゅうから、きじになれば、
できるかもしれない。
あまのじゅんや君っ。
…（震え出す）。
おい。早く謝れ。
この戦場で『桃太郎』に参加できないことは…死を意味するわ。
ご、ごめんなさい…。冗談よ冗談。
私もまげてよ『桃太郎』。ね。私キジ大好き。
僕もきじ、大好き。
『桃太郎』やる人、この指とまれ。

【03】

ひかる

「なな・ひかる」です。
お国のためなら、どんな任務もなんのその。
厭戦気分などつゆほども湧かない僕です。
が、疲労困憊、神経衰弱、満身創痍の状況下。
何をしてくすかわかりません。
「誰か故郷をおもわざる」。
応答、願います。

いぞう

ここに来て、残りの食料はビスケットが一枚…。
ひとつ前の街に戻りましょう。

みづき

たしかあったわ、スーパーマーケット。

せなこ

スーパーマーケット？

もしかして、あるんじゃない、チョコレート。

いぞう

いや、ここは共産圏だ。チョコレートなんて置いてるかな。

ひかる

いやいや、共産主義国家だってチョコレートぐらい食べるだろ。

きよし

そうだな。共産主義国家だって、チョコレートは食べるし、
殺鼠剤だってもっている。

せなこ

サッソザイ？
ネズミ殺しだよ、ネコイラズ。

きよし

どっかの部隊は殺鼠剤まみれのチョコレート、
腹一杯食ってゲロ吐いて死んだ。

せなこ

それでも戻るか、スーパーマーケット？

みづき

：それにしても、ビスケットが一枚なんて。

きよし

手持ちの食料は底をつき、補給路は断たれ、袋のネズミ。

ひかる

それでも、まだ僕らのイマジネーションの泉は枯れてはいない。

きよし

さすが。劇作家さんはお言葉が上手い。

あまの

劇作家じゃないよ。…あまの・じゅんや君。

ひかる

はい。

きよし

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

あまの

はい。

いぞう 信じらんねえぜ。
きよし これを繰り返す。
せなこ (冷ややかに) なんて素敵なディナー…。
きよし ポケットの中には？
あまの ……ポケットが一つ。
きよし ポケットを叩くと
あまの ……ポケットは二つ。
みづき ねえソレ、一枚ずつしか増やせないの…。
きよし 待てないなら先に休め。
ひかる そうさせてもらおう、ビスケットは部隊長殿にお任せしてさ。
きよし ここで野営だ。各自、人間か動物以外になつてくれ。
いぞう 人間か動物以外って…。
ひかる 木しかないだろ。
みづき 木しかないわね。
せなこ お花があるわよ。私は可憐なチューリップ。

せなこ、花に変身する。

きよし やめろ。お花は小さすぎて、踏みつぶされる危険がある。
ひかる それじゃあ、僕はパパと見にいった、屋久杉になるさ。

ひかる、屋久杉に変身する。

せなこ それもやめろ。大きすぎて、敵に見つかってしまふ。
いぞう だいたい、こんな外国に、屋久杉があるかよ。
きよし くれぐれも、くれぐれも、目立たないようにしてくれ。
一同 了解。

樹木に変身しようとすると、きよしの体が輝き出す。

いぞう ……いや、きよし。なんだよそれ。
みづき それって、クリスマスツリーじゃないの。
ひかる 戦場のメリークリスマスってか…。
せなこ てっぺんのお星様も、飾りもキラキラじゃない。
みづき やめてよ。目立たないようにしろって言ったのはあなたでしょ。
きよし ……うん。でも、これしか、できないんだ。
ひかる は？
ひかる。 屋久杉は、父さんとの思い出だって言ったね。
きよし そうさ。
ひかる。 僕も、これが、父さんとの最後の思い出なんだ。
きよし サンタさんが来てくれるように、父さんは、
きよし なけなしのお金でクリスマスツリーを買ってくれたのさ。
きよし 父さんは僕が3歳のとき、交通事故で死んじゃった。でも…

いぞう (無視して) ツリーを隠すように、森を作ろう。
一同 了解。

一同、樹木に変身する。

あまの 森かつ。森なのかつ(走り出す)。
いぞう あまのじゅんや君? どこに行くんだ。
あまの おばあさんのお見舞いに。
せなこ 「赤ずきんちゃん」のつもり?
あまの 「赤ずきんちゃん」です。
ひかる ポケット叩いてビスケット増やすんじゃないのかよ。
あまの 「赤ずきんちゃん」です。
せなこ あ、もうこれ、ダメだ。ハナシ通じない。
みづき ごめんね。今夜はわたし、付き合えない。
あまの 行ってきまーす。

あまの、舞台から完全に姿を消す。

【04】

いぞう 「しりた・いぞう」です。
部隊長「あまの・じゅんや」は赤ずきんちゃんのスキップで俺たちの周りをぐるぐる回っていました。
しかし、今朝、我々が森から人間に戻ると彼の姿はどこにもありませんでした。
この部隊のメンバーは6名。行方不明者1名。
応答、願います。

きよし 向かった先はわかっている。「おばあさん」のお見舞いだ。
せなこ おばあさんで、どこにいるのよ?
きよし どこにもいないさ。しかし、どこかにいると信じて、あまのじゅんや君は旅立ったのさ。
みづき 私のせいよ…。私が『桃太郎』と同じように赤ずきんちゃん「おばあさん」をやっていたら、
せなこ そうよ。アンタがおばあさんをやっていたら、赤ずきんちゃんはここにいたはずよ。
きよし みづきを責めるな。それに『赤ずきんちゃん』ならオオカミ役がいないと成立しないだろ。
ひかる それを僕がやるべきだったってのか?
きよし やさしい狩人のおじさんに、腹を切られて、石つめられて、池にどぼんのオオカミ役を。
きよし 誰もそうとは言っていない。

ひかる よく聞け。一度しか言わないぞ。僕は『桃太郎』の犬だ。
きよし 了解した。
いぞう しかし、どうする。部隊長がいないと、
きよし 待て。ここにビスケットが落ちている。
いぞう ポケット叩いて増やしたやつか。
きよし 転々と向こうに続いている。これを辿れば出会えるかも。
みづき 『ヘンゼルとグレーテル』ってことね。
せなこ 待って。そっちにはジャングルがあるんじゃない。
きよし そうか。あまのじゅんやくんは、ゲリラの潜むジャングルに、
みづき おばあさんのお見舞いに行ったのか。
きよし そんな。一人つきりで？
ひかる 安心しろ。赤ずきんちゃんて居続ける限りは、命の心配はない。
きよし 問題は…。
いぞう 残された僕たちだな。
きよし 僕たちだけでやれる演目を探すしか無い。
一同 うーん…。
いぞう 『はなさかじいさん』はどうだ？
ひかる おじいさん（きよし）におばあさん（みづき）。
きよし そして何より、犬（ひかる）がいる。
ひかる わしらは、いじわるじいさん（いぞう）、ばあさん（せなこ）。
きよし 「ここほれわんわん。ここほれわんわん」…。
きよし 「大判小判がざっくざく。枯れ木に花を咲かせましょう」…。
ひかる よし。イケるぞ。
きよし 『はなさかじいさん』やる人、この指…。
ひかる 待て。その犬、途中で死ぬだろうが。死んで灰になるだろうが。
きよし 君たちどうしても僕を殺したいようだな。
きよし 誰もそうは言っていない。
ひかる いいか？ もう一度言うぞ。僕は『桃太郎』の犬だ。
きよし 了解した。
ひかる 私もいやよ。いじわるばあさんなんて、あり得ないわ。
きよし じゃあ『一寸法師』はどう？
きよし 『一寸法師』か…。お椀のお船。打ち出の小槌…。
きよし 賛成。それって私が、お姫様ってことでしょ？
きよし ダメだ。僕らがおじいさんおばあさんになるとしてもだ。
せなこ 主役の「一寸法師」をできるやつがない。
いぞう あんた（いぞう）、がんばればできるでしょ。
ひかる 本当に命を預けられるのか？ 俺の一寸法師に。
みづき あまのがいてくれなきや、お話にならないな。
きよし ううっ…（倒れる）。
みづき だ、大丈夫か？
きよし 大丈夫よ。わたしは「病気のおばあさん」。
みづき おばあさんとして、赤ずきんちゃんのおまの君を呼び戻すの。
みづき みんな手伝って。森になって。オオカミになって。

きよし
ひかる

今さら無理だろ…。
第一、あまのじゅんや君が
赤ずきんちゃんを続けているという保証がどこにある。
あいつはもう、別の世界を生き始めているかもしれないぞ。

【05】

みづき

「ひより・みづき」です。
危機的状況であるというごことは
ご理解いただけだと思います。
このまま私たちの部隊が崩壊すれば
前線は後退し、優勢だった戦況も
予断を許さない状況になるでしょう。
とにかく援軍を。
せめて応答、願います。

きよし

あまのじゅんや君を呼び出さないことには
進軍も撤退もままならない。
こうなったら最後の手段。

『赤ずきんちゃん』や『桃太郎』の

あまのじゅんや君ではなく、

あまのじゅんや君本人を呼び寄せよう。

演目や役柄ではない、

あまのじゅんや君そのものを。

どういうことだ？

今ここで、

あまのじゅんや君本人に関わる物語を始め、
彼を強制的に、この舞台に引きずり込む。

ちよっと待って、それって…

新作ってこと？

新しい…物語…？

なんだ君、劇作家の夢は諦めていなかったんだな。

劇作家じゃないよ。

そして新作じゃない。

これは僕たちの物語。

あまのじゅんや君と、僕たちの物語だ。

『あまのじゅんや君』やる人、この指とまれ。

一同、しょうじきよしの突き立てた人差し指に集う。

【06】

せなこ

ねえ。国防長官。聞こえてんでしょ。「おま・せなこ」よ。私には、ちゃんとわかかってんだからね。あんたたち、用済みになった私たちを見殺しにする気ね。たしかに私たちは強くなりすぎた。あんたたちは現実の敵以上に、それに勝ち続ける私たちのイマジネーションが恐ろしくなっちゃってわけね。それでも私は負けないわ。こんなところで死んでたまるか。まだ「シンデレラ」になる夢だって、諦めちゃいない。これがこちらからの最後の通信。女がいつまでも待ってると思ったら大間違いよ。

きよし

さあ、始めよう僕たちの物語。

一同

あまのじゅんや君と、僕たちの物語。

きよし

あまのじゅんや君と初めて出会ったのは初めて出会ったのは。

きよし

：あれ？ 何だっけ？

みづき

おしっこだわ。

いぞう

おしっこか。

せなこ

おしっこね。

ひかる

おしっこさ。

一同

おとなたちが、僕たちのおしっこを集め始めた。

その言葉が放たれた瞬間、

あまのじゅんやが舞台上に飛び込んでくる。

あまの

(叫ぶ) おとなたちが、僕たちのおしっこを集め始めた。

【06】

一同

おしっこ集めてどうすんだ。

きよし

おしっこ集めて調べるのさ。

みづき

色とか臭いとか成分さ。

いぞう

カラダに問題がないかどうかさ。

せなこ

カラダに問題なんてないや。

ひかる

問題のない私たち。

あまの

でも、

一同

おしっこ集めるおとなたち、

あまの
一同
あまの
一同
あまの

に、
あいつだけ呼び出された。
おしっこ集めるおとなたち、
に、
僕だけが呼び出された。

あまのを除く一同、おとなを演じる。

きよし
みづき
あまの
いぞう
せなこ
あまの
きよし&いぞう
みづき&せなこ
あまの
ひかる
一同
あまの
きよし&いぞう
あまの
みづき&せなこ
あまの
ひかる
一同
あまの

「おかしいね。おかしいね」
「放射性物質が、検出されない」
「ホウシヤセイブツシツ？」
「これは本当に君のおしっこ？」
「これは本当に君のおしっこ？」
「本当です。」
「おかしいね。おかしいね」
「放射性物質が、検出されない」
「ホウシヤセイブツシツ？」
「また明日、もってきてくれるかな」
「おしっこ」
「僕だけ、再び、おしっこを持ってくる。」
「おかしいね」
「僕だけ、
「また明日、もってきてくれるかな」
「おしっこ」
毎日、毎日、僕だけ、おしっこを持ってくる。
こぼれないように、こぼさないように。

あまのを除く一同、こどもを演じる。

一同
あまの
一同
あまの
一同
あまの

「やーい。やーい」
みんな、
「おしっこ。やーい」
みんなのおしっこからは
ホウシヤセイブツシツが検出されたのかい。
「まーねー」
いいなあ。
僕のおちんちんよ。おしっこよ。頼む。
僕のおちんちんよ。おしっこよ。頼む。
検出されろ、ホウシヤセイブツシツ。

あまのを除く一同、再びおとなを演じる。

きよし&いぞう 「おかしいね。おかしいね」
みづき&せなこ 「放射性物質が、検出されない」
ひかる 「また明日、もってきてくれるかな」
一同 「おしっこ」

あまのを除く一同、再びごどもを演じる。

あまの 待ってくれ。
一同 「なんだよ？」
あまの 待ってくれ。
一同 「なんだよ？」
あまの 僕に分けてくれよ。君たちのおしっこ。
一同 「やだよ」「いやよ」「やだよ」「いやよ」
あまの どうしても出ないんだ。ホウシャセイブツシツ。
きよし 「かっこわるいの」
みづき 「ヘンなやつ」
いぞう 「ナイブヒバクしてないなんて」
ひかる 「ナイブヒバクしてないなんて」
一同 「きもちわるーい」

せなこ、せなこ本人を演じる。

せなこ 私の名前は「おま・せなこ」。
あまの 私のおしっこなんて、このあたりじゃ一番多かったのよ。ホウシャセイブツシツ。どうしたら、どうしたら、君のようにおしっこからホウシャセイブツシツが検出されるんだい？
せなこ いい子にしていればいいのよ、あたしのように。ウソ、とかつかないで。
あまの ウソ？
一同 「ウソつき」
あまの ウソつきじゃない。
一同 「ウソつき」。
あまの ウソつきじゃない。
一同 「じゃあ、じゃあ、じゃあ、じゃあ、じゃあ、じゃあ、はい？」

一同、あまのを問い詰める。

一同 「昨日は何をしてみました？」
あまの おばあさんのお見舞いさ。
赤いずきんを頭に被り、オオカミの潜む森超えて。

一同 「一昨日は何をしました？」
あまの 近くの海辺で魚釣り。

一同 虐められてる亀を助けて、案内されたよ竜宮城。
あまの 「明日は、何をするんですか？」

一同 「明日？」
あまの 「明日」
あまの 明日、僕はこの世界に生まれてくる。

舞台上に川が流れ出し、一同を飲み込む。
あまのは桃へと変身し、水面を漂っている。

あまの どんぶらこ、どんぶらこ、
川を流れる大きな桃。

それを拾うのはおばあさん。
それを割るのはおじいさん。

彼らのおかげで僕は生まれる。
桃の中からこんにちは。
僕の名前は桃太郎。
桃から生まれた、桃太郎。

あまの以外の俳優達、物陰から顔を出す。

一同 「あまのじゅんや君」
あまの はい？

一同 「あまのじゅんや君」
あまの はい？

一同 「桃太郎じゃないだろ。おまえはあまのじゅんやだろ」
あまの あれ？ そうなの？
一同 「ウソつき。あまの。あまのじゃく」

ひかる、おとなを演じる。

ひかる 「そうかそうかそうかそうか。君はウソつきなんだね。
君のおしっこも、きつと。
放射性物質が検出されない君のおしっこも、きつと。
ニセモノなんだろう。」

あまの お茶かな？ 紅茶かな？
ひかる ほうじ茶かな？ 麦茶かな？
あまの ほ、ほ、本当です。

ひかる それは本当に、僕のおしっこなんです。
あまの 「明日はちゃんと、本物をもって来てくれるかな。
あまのじゅんや君。あまのじゅんや君」

あまの

あまのじゅんや君？

そうかそうかそうか、それが僕なのか。

一同

「僕の名前は、あまのじゅんや君」

あまの

けど僕は、全然さっぱりわからない。その…？

一同

「あまのじゅんや君」

あまの

という人のことが。

ホウシャセイブツシツが検出されないおしっこをする

一同

五歳の男の子のことが。

きよし

「あまのじゅんや君」

きよし

「とは一体、何者なのだろう」

みづき

「何をしたらよいのだろう」

いぞう

「何をしたら、何をしたら、」

せなこ

「どうなるのだろう」

ひかる

「全然さっぱりわからない」

あまの

けど僕は、他の人のことならよくわかる。

きよし

「何をしたいのか」

みづき

「何をすればよいのか」

いぞう

「何をしたら、何をしたら」

せなこ

「どうなるのか」

ひかる

「君は本当にお芝居が好きなんだね」

あまの

「俺様が好きなのは、金貨や宝石。嫌いなものはピーターパン。

と、チクタクワニ。

やつは俺様の左手をガブリと食べて行ったんだ。

みづき&きよし

「左手を？食べられた？」

いぞう&せなこ

「君の左手はちゃんとしているじゃないか」

あまの

「左手？ これはかぎ爪だ。そこからついた名前はフック。

海賊キャプテン・フックとは、俺様のことさ」

ひかる

「君は本当にお芝居が好きなんだね」

あまの

オシバイ？

一同

「お芝居」

あまの

オシバイ？

一同

「お芝居」

あまの

オシバイ…？

オシバイってなんだろう？

僕はただ、僕がよく知っている僕になっているだけさ。

海賊キャプテン・フックとは俺様のことさ。

一同

「ウソつき。あまの。天邪鬼」

あまの

ウソつきじゃない。

ひかる、ひかる本人を演じる。

ひかる　こんなウソつき放っておいて、さあ、本当の話をしよう。
僕の名前は「なな・ひかる」
「こぶとりじいさん」？
違うよ。こぶもなければ老いてもいない。
（改めて）僕の名前は「なな・ひかる」。
僕は先週、パパと一緒に、戦場にいったのさ。
センジョウ？
あまの　戦争している場所さ。
ひかる　みつき&せな「どこのそれは？」
ひかる　どこだと思う？
きよし&いぞう　「もしかして」
ひかる　そう、もしかして、の？
あまの　「鬼が島」？
一同　「あ？」
ひかる　（改めて）中央アジア戦線さ。
一同　「中央アジア戦線かあ」
ひかる　「いいなあ。いいなあ。どうだった」
どうだったって、そりやすごかったよ。
銃弾が飛び交いビュンビュンビュン、
敵も味方もバツタバタ。
僕はパパと戦闘機で、爆弾落としてやったのさ。
軍人も民間人もジャーナリストも関係無い。
爆弾落としてやったのさ。
あんな楽しい光景はないね。
一同　「いいなあ。いいなあ」
ひかる　僕のパパは、この国いちの軍人さ。
僕のパパは、国際的な武器商人。
僕もいつか戦争に行つて
勲章をじゃらじゃらもらうんだ。
一同　「すてき」
ひかる　あ、うちに本物の戦車があるから、見においでよ。
一同　「見るー」
あまの　「見るー」
ひかる　：悪いな、あまの。
その戦車、5人用なんだ。いち、
みづき　に、
いぞう　さん、
きよし　よん、
せなこ　ご。
あまの　ご。
ひかる　行こうぜー。
一同　「わー」

あまの　：いいもん。うちにだってあるもん。戦車。
一同　「えー。戦車が？戦車が？あるのー？」
あまの　あるよ、戦車。
ひかる　ウソつけ。公営団地に住んでるようなお前が、
戦車なんて買えないだろう。
あまの　この公営団地っ子が。
ひかる　あるもん、戦車。
あまの　ウソつけ。
ひかる　本当に戦車あるもん。
あまの　じゃあ見せてみるよ。
ひかる　見せてあげるよ。
あまの　じゃあ、見に行つてやるよ。
ひかる　おいでよ僕んち。
あまの　行くよ君んち。
ひかる　僕は鍵っ子。
ひかる　お邪魔しまーす。

舞台上は、あまのの家になったようだ。

ひかる　狭い家だな。で、どこだよ戦車。
一同　「どこな戦車」
あまの　ここだよ戦車。じゃじゃーん。

あまの、おもちゃの戦車を取り出したようだ。

みづき　：ちんまり。
ひかる　ばっかじゃねえの。これは、おもちゃだろ。
あまの　おもちゃじゃない。戦車だ。本当に動くんだ。
せなこ　動く動く？　ラジコンでもないのに？
ひかる　動かしてみろよ。
あまの　わかったよ。ちよつと待つてて、今乗るから。
みづき　：え？　乗る？　あんたが乗るの？
あまの　そりゃそうさ。乗らなきゃ操縦できないだろ。
みづき　え？　乗る？　あんたが乗るの？
あまの　そうさ。
せなこ　どうやって乗るの。
あまの　どうやってって、上のハッチを開けて…。
ひかる　そうじゃなくて、こんなちんまり戦車にどうやって…。
あまの　じゃあ乗るからね。戦車、出動。がちゃん。

あまの、戦車で遊び出す。
呆れて帰り出す一同。

あまの あれ？何でみんな、帰っちゃったんだらう。

みづき、みづき本人を演じる。

みづき いたたまれなくなつて。

あまの イタタマレ？

あまの あんたの姿を見るのがつらくてさ。公営団地に住んでいる貧民層の姿を見るのがさ。

あまの 公営団地に住んでいる貧民層…誰だいそれは？

みづき あんたのことよ。

あまの 僕のおうちはお椀の舟さ。僕の名前は「一寸法師」。

みづき 一寸法師じゃないでしょ。

あまの 打ち出の小槌で僕を大きくしてください。お姫様！

みづき お姫様じゃないし。私の名前は「ひより・みづき」よ。

あまの 「かぐやひめ」？

せなこ、現れる。

せなこ あんた、今日もおしっこ持ってきたの？

あまの 毎日、毎日、僕だけ、おしっこを持ってくる。

せなこ こぼれないように、こぼさないように。

あまの 持っていないじゃない。おしっこ忘れたんじゃない。

せなこ あれ？

あまの じゃあ、私のおしっこ貸してあげよっか？

せなこ 本当に。

あまの 内緒よ。

せなこ ありがとう。あ、でも…。

あまの 大丈夫。ホウシヤセイブツシツ？バリバリ入ってまーす。

あまの すごいじゃないか。

せなこことみづき、おとなを演じる。

せなこ 「すごいじゃないか。ちゃんと検出されたよ。放射性物質」

あまの よかったー。

せなこ 「よかったー」

あまの これでおしっこ生活とはおさらばだ。

せなこ 「ちよっと待って。これは本当に、君のおしっこかな」

あまの …はい。僕のおしっこです。

せなこ それは僕がついた初めてのウソだった。

あまの ウソつけ。いつもウソばかりついてるくせに。

きよし、いぞう、登場。

きよし 「どうしてなの？」
あまの 誰だこのおばさんとおじさん。
せなこ 私のママとパパよ。
きよし 「どうしてあなただけ、内部被曝してないの？」

「うちの子は内部被曝してるのに
他の子もみんな内部被曝してるのに
そしてこの私も内部被曝してるのに
どうしてあなただけ、内部被曝してないの？」
違うわママ、パパ。

せなこ 「ママよーパパよー」
きよし 彼、ウソつきなのよ。
せなこ 彼はウソつきではない。
あまの 僕はウソつきではない。
せなこ だったら名前を言ってご覧なさい。
どうせデタラメを言うんでしょ。

あまの 僕は…僕は…。
せなこ 名前はなあに？
あまの 私は可愛い「シンデレラ」。
みづき&せなこ ちょっと、それは私の。私がやるの。

【07】

せなこ みづき、争い出す。ひかるがやってくる。

せなこ 私よ。
みづき 私よ。
せなこ 私よ。
みづき 私よ。
みづき&せなこ 私よ。
ひかる みんなー。

今度のお遊戯会で上演するであろう『シンデレラ』。
そのヒロインである「シンデレラ」の座を
奪い合うのはやめたまえ。
僕が「王子様」をやるからといって。
そんな理由じゃないわよ。
「シンデレラ」になりたいの。

みづき そう。
せなこ ただ、シンプルに、「シンデレラ」になりたいの。
みづき そう。
せなこ それは、女として生まれし者の、当然の業。
みづき ごう。
あまの その気持ち…よくわかります。

みづき&せなこ あんた男でしょ。
あまの 私は可愛い「シンデレラ」。
せなこ やめるおー。
みづき だいたいさー。「シンデレラ」がおしっこするかよ。
せなこ はっ。
みづき 「シンデレラ」ってお姫様でしょ。お姫様がおしっこするかよ。
せなこ おしっこに含まれるホウシャセイブツシツの検出量が
ダントツだった私には
おしっこのイメージが定着しつつあるんですかー？
ひかる じゃあ、おしっこを限界まで我慢できたことが
「シンデレラ」ってことにしよう。
せなこ ナイスお裁き。果ては博士か大臣か。
ひかる おしっこ我慢、よーい、スタート。

おしっこを我慢し始める。

あまの シンデレラを夢見る女の子たちは皆、おしっこを我慢し続けた。
ひかる って、あまの。お前は女の子じゃないだろ。
あまの なんて一緒に我慢してんだよ。
ひかる 私は可愛い「シンデレラ」。
みづき 好きにしろ。
ひかる も、も、もう無理ー。(もらす)
みづき もらしてしまった君は
ひかる 「まほう使いのおばあさん」をやってもらおう。
みづき 任せなさいっ。ふおふおふお…。
ひかる 残る二人は、あまのじゅんやとおませなこ。
せなこ 勝った方は「シンデレラ」。負けた方は「まま母」さ。
あまの あんた、おしっこしなさいよ。
せなこ 私は可愛い「シンデレラ」。おしっこなんて、でないわ。
あまの おしっこしなさいよ。
せなこ でないわ。
あまの かくなるうえは、手段は選ばないわー。
ひかる 下剤、利尿剤、飲みなさい。(あまのに薬物を飲ませる)
せなこ 下剤と利尿剤を飲まされた、あまのじゅんや君は
ひかる 急いでトイレに駆け込んだ。
せなこ おーっほっほ。おーっほっほっほっほ。
ひかる これで私が「シンデレラ」よー。
せなこ あれ？ あまのが女子のトイレに入ったぞ。
ひかる 哀れな男め。まだ女の子の夢を見るか。
せなこ その惨めな姿、とくと見てやろう。

トイレを開けると、便器を洗っているあまのの姿がある。

ひかる あまのじゅんや君は…もらしていなかった。
あまの そう、わたしはみじめな「シンデレラ」。
ひかる ごしごしトイレの掃除するわ。
せなこ 下剤と利尿剤を服用させられても、「シンデレラ」で居続けた。
なんなのよー。(もらす)

ひかる あまのじゅんや君。
これで君が「シンデレラ」だ。
あまの もう我慢しないでいいよ。おしっこをしたまえ。
ひかる おしっこはね、でないの。
あまの は。
ひかる 私、「シンデレラ」だからさ。
あまの え？
ひかる 「シンデレラ」だから。お姫様だから。
あまの おしっこは、でないんだよ。

いぞうときよし、やってくる。

いぞう たしかに。
この頃のあまのじゅんや君がトイレに入った姿を見た者は、
誰もない。
きよし そんなことがあったんだねー。
せなこ 知らなかったよ？
きよし 知らなかったよ。
せなこ そうだったけ？
あまの この頃の僕は、まだ皆とは出会っていない。
きよし さっきまでそこにいた僕は、脇役というかモブキャラさ。
あまの ここから僕は僕本人「しろうじ・きよし」に戻ります。
きよし これまでの僕は忘れてください。こっからです。
あまの あ、もう12時だわ。
きよし わたしはおうちに帰ります。
あまの ガラスの靴は落として行くわ。

あまの、舞台から消えてしまおう。

みづき きよし。あんたが急に自分の話を始めたから、
あまの 君またどっか行っちゃったじゃない。
きよし 大丈夫さ。僕らはすぐにまた出会う。
あまの 僕とあまのじゅんや君は同じ公営団地に住んでいたからね。
きよし その頃の僕は、外に出る事を禁じられていた。
あまの 家に閉じ込められていたのさ。

【08】

きよし

「助けて」と。
「助けて」「助けて」「助けて」と。
僕は何度もベランダから叫んだが、誰も助けてはくれなかった。いつの間にか、僕の家に住み着いていたその男は、タバコの火を僕の腕に押し付けるなんて生優しいことはせず、灰皿がわりにしていたすり鉢で頭から肩から背中から何度も殴りつけてくる。殴られながらも、僕は、「どうしてうちに、すり鉢なんて殴るのにお手頃なアイテムがあるんだろう。母さんがすり鉢を使ったところなんて見たこと無いよ。そもそも母さんは料理が苦手じゃないか」なんてことを考えながら、「ああ、そうか。これは僕を殴る為に、僕を殴る為だけに、ホームセンターかあるいは100均で買って来たんだなあ」と結論づけた。

きよし、他の俳優達にする鉢で殴打される。

きよし

「助けて」と。
「助けて」「助けて」「助けて」と。
僕は何度もベランダから叫んだが、誰も助けてはくれなかった。母さんは、もう何週間も帰ってこない。お仕事に行ったのだ。派手なお化粧をしてキレイなドレスを着て、お仕事に行ったつきり、もうもう何週間も帰ってこない。僕はこの男の人に、もう何週間もすり鉢で、殴られるだけの毎日を過ごしている。「助けて」と。
「助けて」「助けて」「助けて」と。
僕は何度もベランダから叫んだが、誰も助けてはくれなかった。

誰もこちらを見ない。
聞こえてないのか。
聞きたくないのか。
誰もこちらを見ない。
と思ったら、遠くで一人の男の子が
こっちを見ている。

舞台上にやってくる、あまの。

きよし　　おーい。
あまの　　はーい。
きよし　　やった。「助けて」「助けて」
あまの　　「助けて」って言ってるのかい？
きよし　　ああ、そうだよ。
あまの　　いじめられてるのかい？
きよし　　ああ、そうだよ。
あまの　　ってことは、君は亀なんだね？
きよし　　は？
あまの　　ここは海辺なんだね。君を助けたら、
きよし　　竜宮城に連れてってくれるんだね。
きよし　　違うよ。
あまの　　僕は亀じゃないし、ここは海辺じゃない。
きよし　　ええっ？　亀でもないのに、
あまの　　どうして「助けて」なんて言うんだい？
きよし　　おっかしいのー。
あまの　　え？　ちよっと待って…。

あまの、舞台上から立ち去る。

きよし　　その子は立ち去った。なんだったんだあいつ。

やがて僕は考えた。

そうか、僕の台詞がよくないんじやなろうか。
「助けて」と言われて助けにきてくれる、
この団地に、そんな優しいアンパンマンはいない。
みんなにとって、団地のみんなにとって、
見逃せない聞き逃せないことを叫ばないと。

…オオカミだ。
この団地に、例えばオオカミが出たのなら、
さすがの皆も無視できないだろう。
ひらめいた瞬間、僕の右肩がすり鉢で砕かれた。

きよし、他の俳優達にすり鉢で殴打される。

きよし
「オオカミだ」「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」
よろよろよろめきながら、ベランダに逃げ込み叫んだ。
「オオカミだ」
「オオカミが出たぞ」

みづき、せなこ、いぞう、団地のおとなを演じる。

みづき
「オオカミって？」
せなこ
「なんですの？」
いぞう
「本当にオオカミ、出たの？」
みづき
「オオカミって？」
せなこ
「なんですの？」
いぞう
「本当にオオカミ、出たの？」
きよし
「なんだ、みんな。
自分のことになると必死じゃないか。
すり鉢攻撃はぱったりとやみ
男はドアを開け
（男）「オオカミ？オオカミなんていませんよ」
と説明した。
めでたしめでたし。」

きよし、他の俳優達にすり鉢で殴打される。

きよし
すり鉢攻撃が来る度に、僕は叫んだ。
「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」
いぞう
「オオカミって？」
みづき
「なんですの？」
せなこ
「本当にオオカミ、出たの？」
きよし
すり鉢攻撃はぱったりとやみ、
男はドアを開け
（男）「だから、オオカミなんていませんよ」
と説明した。
めでたしめでたし。」

きよし、他の俳優達にすり鉢で殴打される。

きよし
「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」
せなこ
「オオカミって？」
いぞう
「なんですの？」
みづき
「本当にオオカミ、出たの？」

きよし

すり鉢攻撃はぱったりとやみ

みづき

男はドアを開け

きよし

(男)「だから、オオカミなんていませんよ」と説明した。

めでたしめでたし。

きよし、他の俳優達にすり鉢で殴打される。

きよし

「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」

みづき

「オオカミって?」

せなこ

「なんですの?」

いぞう

「本当にオオカミ、出たの?」

きよし

すり鉢攻撃はぱったりとやみ

男はドアを開け

いぞう

「だから、オオカミなんていませんよ」と説明した。

めでたしめでたし。

きよし、すり鉢で殴られ続ける。

きよし

「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」

「オオカミだ」…。

初めのうちは信じてくれていた

団地のおばさんたちも、

次第にこれが、ウソだと気づく。

そして、ニホンオオカミは

とっくの昔に絶滅したという事実にも、

今さらながら気がついたようだ。

すり鉢攻撃は、

以前のような激しさを取り戻した。

耳とか鼻とか、出っ張っていた部分は

もうぺしゃんこだ。

あばらも腕も、とっくに折れていて、

今の僕は、自らすすんで背中を差し出し、

頭蓋骨をかばうようにするばかり。

きよし、すり鉢で殴られ続ける。

きよし

「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」

ああ、本当に

オオカミが出て来てくれたらいいのにな。

本当にオオカミが出て来てくれたら、

すり鉢攻撃はぱったりとやむだろう。
この男の人を食べてくれるかもしれない。
お母さんもお仕事から
帰ってくるかもしれない。

何やってんだよ、オオカミ。
早く来てくれよ。

僕はこんなに、お前を待ち望んでいるんだぜ。

きよし、すり鉢で殴られる。

きよし

「オオカミだ」「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」
何百回目になるだろうか。

ペランダからそう叫んだ瞬間、

団地の下から悲鳴があがった。

団地全体が騒がしくなる。

みづき

「オオカミだわ」

「オオカミが出たわ」

「オオカミだわ」

「オオカミだわ」

「オオカミが出たわ」

「オオカミが出たわ」

「オオカミが出たわ」

「オオカミが出たわ」

団地中のすべてのおばさんが叫んでいる。

みづき

「オオカミだわ」

「オオカミが出たわ」

「オオカミだわ」

「オオカミだわ」

「オオカミが出たわ」

僕はペランダから下を見た。

そこには、一匹のオオカミがいた。

毛並みは美しく、目玉はぎよろぎよろ、

オオカミが、こつちを見た。

目が合った。にこり、と微笑んでいた。

ように見えたけど、多分、それは僕の錯覚だろう。

オオカミは、団地の敷地をすりりんすりりん走り去っていった。

すり鉢男はオオカミの姿にびっくりしたのか、

僕の家から逃げに行った。
僕は自由を手に入れた。

後から聞いた話だが、団地の一階に住んでいた
寝たきりのおばあさんが、食べられてしまったそうです。

【09】

いぞう

公営団地に一人で住んでいた、父方の祖母が亡くなったので
今夜の夕食はすき焼きです。
遺産や保険金がたつぷり舞い込んでくるから
奮発するわと母は申しておりました。
祖母はずっと寝たきりでしたが
僕ら家族との同居を拒み続けていたそうです。
しかし、同居を拒んでいたのはむしろ
母の方だったんじゃないかと僕はいらんですが、
実際のところは分かりません。

祖母は、オオカミに食べられたそうです。
オオカミに食べられるなんて、そんな

『赤ずきんちゃん』みたいな死に方があるもんか
と思っていました。実際に
祖母の遺体と対面したという父の様子を見ると、
あ、これ、あるかも。って思いました。

今夜のすき焼きは、
我が家に舞い込むであろう祖母の遺産で食べる
今夜のすき焼きは、
まるで祖母の肉を食べるようではないでしょうか。

いただきます。

きよし

祖母の住んでいた公営団地では、

「しようじ・きよし」という少年が、数日前から
「オオカミだ。オオカミが出たぞ」

いぞう

と叫んでいたそうです。
え？ どういうこと？

きよし

僕は何も知らないよ。

きよし

君が殺したのかい？ 君が殺したのかい？
違うよ。殺されそうだったのは僕の方さ。

きよし

僕はずつとすり鉢で殴られていたんだ。

きよし

実の親に？ 実の親に？

きよし
いぞう
きよし
いぞう
いや、赤の他人だよ。
赤の他人に？ 実の親は？
父さんは死んじゃって、母さんは仕事から帰ってこない。
暴力とネグレクト。被虐待児だね。

きよし
いぞう
きよし
『かわいそうなぞう』くらいかわいそう。
そのストレスから寝たきりの僕のおばあさんを殺したんだね。
だから違うってば。
僕の名前は「しりた・いぞう」です。
うわっ、へんなタイミングで自己紹介した。

そこへやってくる、ひかる、みづき、せなこ。

ひかる
きよし
「鬼ごっこ」する人、この指止まれ。
に止まる事ができなかった僕は、この世界から存在を消された。

みづき、ひかる、いぞう、せなこ、遊び出す。

いぞう
せなこ
きよし
「かくれんぼする人、この指止まれ」
「おままごとする人、この指止まれ」
公園のあちらこちらから声がする。
僕はどの指にも止まる事ができず、
あっちにふらふら、こっちにふらふら、
さまようばかりだった。
僕がいなくても、この世界は少しの歪みも見せない。
いや、むしろ、僕が僕こそが、この世界の歪みなのかもしれない。
そんなのはいやだ。このままじゃいけない。
僕もこの世界の、一員になりたい。
「この指止まれ」勇気を出して人差し指を一本立ててみた。
指先は震え、喉の奥が一気に熱くなる。
「この指止まれ」

「この指止まれ」
だが、そんな僕の声は、鬼ごっこの一団にかき消された。
僕の指先の震えが止まる。孤独を抱える寂しさは、
やがて、激しい怒りに変わる。
どうして僕が、僕だけが、こんな思いをしなきゃいけないんだ。
「この指止まれ」のその指を、
遠くで走り回る鬼ごっこの一団に向ける。
キヤッキヤ、キヤッキヤと笑顔で鬼から逃げ回る男の子。
女の子。彼らに向かって、バン。バン。バン。バン。
それだけで、胸がスツとした。
誰も一人も、気づいていない。僕に撃たれている事なんて。
バン、バン、バン。
何を楽しそうに走ってやがる。

みづき ミサイルどーん。どーん。どーん。
ひかる はいだめー。議会の承認もなしに
いぞう 大陸間弾道弾は発射できませーん。
ひかる 国際連盟から脱退してるし、大丈夫なんですー。
いぞう だったらこっちは産油国と手を組んで
経済制裁を加えませーす。
ウラン濃縮工場を再稼働させませす。
独裁政権なのだから。
みづき もうだめだ。軍事行動に訴えるしかない。
ひかる そっちが動くならこっちも動く。
みづき ミサイルどーん。どーん。どーん。
せなこ ちょっと待って。コレどうなってんのよ？
せなこ ここがキタチヨウセンでしょ？ あっちがチュウトウ？
きよし ジャングルジムはアメリカだよ？
いぞう シーソーがカナダ？ ブランコがイギリス？
みづき よくわかんない。どーん。
いぞう (せなこをつかまえて) やめろ。こっちには捕虜がいるんだぞ。
ひかる そんなパフォーマン스에 屈するか。殺せるもんなら殺してみろ。
いぞう 世論を操作し報復戦争への気運を高めてやる。
いぞう 言い残す事はあるか？
せなこ お姫様にないたーい。
いぞう お嬢様(撃った)。
ひかる こうなりやゲリラ戦だ。市街地を棄てて、ジャングルに隠れるぞ。
ひかる よーし。敵はジャングルだ。枯葉剤をバラまけ。
せなこ ちょっと待って。コレどうなってんのよ？
せなこ 場所は？ 季節は？ 時間帯は？

あまのが飛び込んでくる。

あまの 待てー。志願兵が参戦したぞ。
一同 この戦争は俺が終わらせてやる。
あまの…
ひかる …お前とは遊んでやらねえよ。
あまの 遊びではない。これは戦いだ。戦争だ。
ひかる お前とは遊んでやらねえよ。
いぞう ナイブヒバクしてないやつとは、遊んでやらねえよ。
せなこ 今この国じゃみんなで仲良く元氣よく、ナイブヒバクしてんのよ。
みづき ナイブヒバクもしてないやつとどうやって遊べって言うのよ。
あまの 志願兵が戦車に乗って参戦だ。

あまの、おもちゃの戦車で遊び出す。

せなこ …あんだ、遊んでやんなさいよ。

みづき え、あたしー。
ひかる 君たちは適当に戦ってなさい。
みづき 適当に？

あまのとみづき、取り残される。

みづき じゃあ適当に、戦いましょう。
あまの 適当に…そこには何の大義も無い。
みづき いや、そもそも戦争に、理由などないのかもしれない。
あまの 私はひたすら、生きて祖国に帰ることだけを願った。
みづき いいから早く。
あまの なるほど。お前が敵国の司令官だな。
みづき パン、パン、パン。
あまの そんな銃弾でこの固い装甲が破られると思ったか。
みづき ひき殺してやる。ガガガガ…。
みづき うわー。ひき殺されるー！

あまの、おもちゃの戦車をみづきにぶつける。

みづき …え、ちよっと待って…何コレ…。
あまの ガガガガ…。

みづきの脚がぐちゃぐちゃと潰れていく。

みづき 痛い…痛い…本当に…やめて…。
あまの どうだ。適当に戦った結果は。
みづき え？
あまの 空しいだろう…。

【10】

みづき 私の、左足の、膝から下は完全に
べちゃんこになった。

せなこ 「どうしてこんなことになったの」
いぞう 「どうしてだ」
みづき ママとパパに聞かれたから素直に答えた。
いぞう 戦車にひかれたのよ。
みづき 「戦車」
これよ（おもちゃの戦車をとりだす）。

せなこ 「ちんまり」
いぞう 「ウソをつくな」
みづき ウソじゃないもん。
いぞう 「ウソをつくな」
みづき 無くした左足のかわりに、おもちゃみたいな足が取り付けられた。

みづきの左足があった場所に義肢が装着される。

せなこ 「どうしてこんなことになったの」
いぞう 「どうしてだ」
みづき こっちが聞きたいわよ。

歩きにくそうに立ち去るみづき。

それを見ているあまのの元に、ひかるがやってくる。

ひかる あまの。どういうことだ。
あまの 戦争だ。戦争が悪いんだ。
ひかる なんだあいつの足がつぶれた。
あまの 戦争だ。戦争が悪いんだ。
ひかる 何を隠してる。言え。知ってるヒミツを言え。
あまの ふっふっふ。冥土の土産に教えてやろう。
ひかる なに？
あまの 王様の耳は、ロバの耳。ぴくぴく可愛いロバの耳。
ひかる ……どういう意味だ？
あまの ヒミツを知った以上、生かしてはおけないな。

あまの、指で銃をつくり、ひかるに向けて発砲する。
すると、本物の弾丸が飛び出し、地面を焦がす。

ひかる ……君が君だけが、ナイブヒバクしていない理由がわかってきたよ。
君は、ずっと、僕たちとは別の次元で生きている。
君の肉体はここにあるようで、違う世界にあるわけさ。
違う世界？ 不思議の国か？
遅刻するウサギ？
あまの ハートの女王？
なんでもない日、万歳。

あまの、ひかるに向かって、指でつくった銃を放つ。
ひかるの右肩が打ち抜かれる。

みづき 「どうしてこんなことになったの」

せなこ 「どうしてだ」

ひかる ママとパパに聞かれたから素直に答えた。
銃で撃たれたんだ。

せなこ 「銃？」

ひかる これさ（指で銃を作る）

みづき 「指？」

せなこ 「ウソをつくな」

ひかる ウソじゃないんだよ。

せなこ 「ウソをつくな」

ひかる 紹介します。僕の友達のおまのじゅんや君です。

あまの 誰だいそれは？

ひかる お前のことだよ。あまのじゅんや君です。

あまの 僕の名前は、あまのじゅんや君。

ひかる あまの。もう一度、撃ってみてくれ。

あまの バン。

しかし、弾は出ない。

ひかる …あれ？

ひよっとしたら「戦争ごっこ」しないとイケないんじゃないか？

あまの 戦争ごっこ？

ひかる 「戦争ごっこ」する人、この指とまれ。

一同、集まる。

指を銃に見立て、戦争ごっこを始める。

あまの 皆殺しだああああ。

あまの、一同を狙い撃つ。
バタバタと倒れていく。

ひかる

この国いちの軍人である僕のパパ。
国際的な武器商人である僕のパパ。
指先から放つ虚構の弾丸で僕の右肩を貫き
公園中の子供達を皆殺しにした
あまのじゅんや君の肉体を
徹底的に調べてよ。

一同、おとなに変身。あまのを取り押さえる。

きよし

大変だ。助けなければ。

あまのじゅんや君という少年を

大人たちの手から助けなければ。

「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」

何度もベランダから叫んだ。

が、オオカミはちつとも現れない。

ので僕は急いでホームセンターに駆け込んで

殴るのに手頃なすり鉢を買って来た。

ウソ。お金がないから万引きしてきた、

よいこは真似しちやだめ絶対。

ねえねえ、君。

名前は「しりた・いぞう」です。

このすり鉢で僕を殴れ。

君のおばあさんを食い殺したあのオオカミを

再びここに呼び出してあげる。

頭から肩から背中から、何度も何度も殴りつける。

いぞう
きよし

いぞう、きよしをすり鉢で殴る。

「オオカミだ」「オオカミだ」「オオカミが出たぞ」

団地の下から悲鳴があがった。

団地全体が騒がしくなる。

みづき

「オオカミだわ」

せなこ

「オオカミだわ」

いぞう

「オオカミが出たわ」

みづき

「オオカミだわ」

せなこ

「オオカミだわ」

いぞう

「オオカミが出たわ」

きよし

オッケービンゴ。これさつきと同じ流れやー。

叫んでいる。

叫んでいる。

叫んでいる。

叫んでいる。

団地中のすべてのおばさんが叫んでいる。

みづき

「オオカミだわ」

せなこ

「オオカミだわ」

いぞう

「オオカミが出たわ」

みづき

「オオカミだわ」

せなこ

「オオカミだわ」

いぞう
きよし

「オオカミが出たわ」
僕はベランダから下を見た。
そこには、一匹のオオカミがいた。
毛並みは美しく、目玉はぎよろぎよろ。
これで、とらわれのあの子を助けられるぞ。
って、あああ。オオカミは、オオカミは、君だったのか？

あまの、オオカミに変身している。

今やあまのじゅんや君の姿はオオカミへと変わり、
取り囲んでいたおとなたちは
みるみるうちにオオカミに食べられていった。

いぞう

あまのじゅんや君。ありがとう。
オオカミ少年の叫びを受けて、
オオカミとなった君のおかげで
我が家のおかずのクオリティは飛躍的な発展を遂げた。
明日もあさつてもすき焼きさ。感謝、永遠に。
そしてへんなタイミングで自己紹介。
僕の名前は「しりた・いぞう」。
今一番、知りたい事は、両親の遺産の…生前分与に関することさ。

【12】

きよし

別の世界で生きることのできるあまのじゅんや君は、
現実世界の内部被曝を免れるだけでなく
自分が信じるの世界の中で
「シンデレラ」としておしっこをせず
「オオカミ」としておばあさんを食べ
おもちやの戦車で女の子の足を潰し
また、指先を銃に変えることができた。
イマジネーションによって生み出された
「戦争ごっこ」の亜空間の中で、この弾丸は放たれる。
というここまでの情報が、おとなたちの手に渡ってしまう。
どうしてなんだろうな。
僕がパパとママにしゃべったのさ。すべては国益の為さ。
この銃は、そして弾丸は、どんな国際条約でも規制されていない。
威力もコスバも最高さ。
また、物語の登場人物になることで、その能力を手に入れ
外的傷害から身を守る事もできる。
こんな素晴らしいこどものイマジネーション。
軍事利用せずなんとする。

ひかる
きよし
ひかる

せなこ　そして、この国のこどもたちは皆、戦争の道具となった。
いぞう　町中のこどもたちが、トラックに詰め込まれ、さらわれた。

みづき　『ハーメルンの笛吹き』ね。
せなこ　そしてイマジネーションの能力を開発するための教育を施された。
いぞう　早い話がオシバイだ。
みづき　いろんなお話をやらされたわね。

せなこ　『桃太郎』
いぞう　『一寸法師』
みづき　『赤ずきんちゃん』…。

ひかる　国家権力の犬だった僕は、やけに「犬」の芝居だけ上手かった。
命令には絶対服従。お手におすわり、三べんまわってワンと言う。
そんな犬として生きる事から、
イマジネーションの扉をひらいた。

ひかる、指先から弾丸を放つ。

せなこ　私はもちろん「シンデレラ」になりたかった。

おしっこもたくさん我慢したわ、だけど、
ガラスの靴ひとつを手がかりに、惚れた女を探すような、
そんなロマンチックな男がいなくてね…。
なんだかんだで、キジに落ち着いたわ。

せなこ、指先から弾丸を放つ。

いぞう　僕は、今では猿をやっている。

ひかる　かつては「竹取の翁」オーディションにも参加したが…。
いぞう　その辺のエピソードは…時間の都合で。
割愛か…。

いぞう、指先から弾丸を放つ。

みづき　…。

きよし　…みづき？ どうした？
みづき　皆、忘れないで。
私たちのようにイマジネーションの能力が開発されたのは、
ほんの一部のこどもたちだけよ。

いぞう　ほとんどのこどもたちは、
イマジネーションのイリュージョンができなかったこどもたちは、
みんな、殺されたのよ。
…私の回想シーン、ちょっと付き合ってもらっていい？
断る理由がない。

一同

みづき 男の子たちは、大きな鉈を持たされた。
一同 女の子たちは、洗濯板を持たされた。
みづき 男の子たちは山へ芝刈りに。私たちは川へ洗濯に。
一同 それぞれ一斉に、大移動。
みづき 川の流れは激しく、水は凍るように冷たい。
一同 「洗濯板を用意してください」
みづき はい？
一同 「洗濯板を用意してください」
みづき はい？
せなこ こんな川で、洗濯を始めるといのか。
みづき 私たちは男の子達がどろどろに汚した
一同 服や靴下やパンツを洗った。
みづき 「ごしごし。ごしごし」
一同 指の感覚はとうに麻痺。
みづき 思うように動かない。
せなこ 気をゆるめるな。
一同 洗濯物が手からするりとこぼれてしまうぞ。
せなこ 「するり」
一同 はっ。洗濯物が手からするりとこぼれちゃった。
せなこ 「落としちゃった？落としちゃった？」
一同 ごめんなさい。
みづき 「拾って来なさいね。拾って来なさいね」
一同 おとな達に担がれてその子は、
みづき 川の中に頭から放り込まれた。
せなこ あー（流される）
みづき 小さな身体はどんどん流されて行き、
せなこ もう跡形も見えない。
みづき おい、やめろ、泣くな。
一同 洗濯をするんだ。川で洗濯を。
みづき 全部洗い終えないうちは、
せなこ 全部洗い終えないうちは、
みづき & せなこ 全員ここから帰れないぞ。
一同 「ごしごし。ごしごし」
みづき なんとか一通り洗い終えた。
一同 ようやく帰れる。
みづき 「まだですよ。まだ帰ってはいけませんよ」
一同 どうしてですか？
みづき もう汚れた洗濯物はない。
せなこ 早く帰りましょうよ。
みづき このままでは凍えてしまう。
一同 「まだですよ。まだ帰ってはいけませんよ」

みづき どうしてですか？
一同 「どんぶらこ。どんぶらこ。」
川上から大きな大きな桃が流れてくるまでは、
まだ帰ってはいけませんよ」
せなこ どういうこと？
みづき なるほどな。
せなこ どういうこと？
みづき 私たちは、洗濯をさせられているんじゃない。
大きな桃をどんぶらここと呼び出す、
儀式をさせられていたのよ。なるほどな。
せなこ あ、至極真つ当なこと言ってる。
みづき 大きな桃なんて流れてくるわけない。
せなこ 馬鹿。ここでそんなこと言っても、
みづき おとなたちが信じる訳が無い。
せなこ あ、いやでも、大きな桃なんて流れてくるわけない。
一同 「本当にそうか、たしかめてみよう」
みづき おとな達に担がれてその子は、
川の中に頭から放り込まれた。
せなこ あー。(流される)
みづき 小さな身体はどんどん流されて行き、
もう跡形も見えない。
せなこ おい、やめろ、泣くな。
洗濯をするんだ。川で洗濯を。
みづき 桃が流れてこないうちは、
せなこ 桃が流れてこないうちは、
みづき & せなこ 全員こゝから帰れないぞ。
一同 「ごしごし、ごしごし」
みづき 私はひたすら、洗濯をした。
どろどろだった男の子たちの服は
もうとっくに真っ白だ。それでも、
「ごしごし、ごしごし」
一同 洗濯をした。
みづき & せなこ 桃よ、来い。早く、来い。
みづき 私の隣の女の子が、あまりの寒さに気を失い、
川にどぶんと落ちて行った。
せなこ あー。(流される)
みづき 助けようとして手を伸ばした他の女の子も、
川にどぶんと落ちて行った。
せなこ あー。(流される)
みづき 見るな。振り向くな。
洗濯、洗濯、洗うんだ。桃よ、来い。
早く、こおおおおい…。

あまの、桃となって流れてくる。

あまの
みづき どんぶらこ。どんぶらこ。どんぶらこ。どんぶらこ。

川上から大きな桃が、流れて来た。
私の魂の洗濯が、偽りの世界からこの世界に、桃を呼び寄せたか。
桃を捕まえようとした。が、だめだ。もう手が動かない。

せなこ 桃よ。桃なのよ。

みづき やめろ、それは私の。私の桃だ。

あまの しかし、桃に飛びついた女の子たちは、

おとなたちに次々と桃から引きはがされ、川底に沈められた。
ひとり、ひとり、またひとり。

みづき 川には、私と、大きな桃が残された。

そうか、私は、選ばれたのだな。

この大きな桃をどんぶらこと呼び出した能力を

おとなたちに見い出され、これから先も、

桃を拾った「おばあさん」として

彼らの言いなりになるのだな、と

そこまで考える余裕はその時にはなく、

大きな桃をかついで、ふらふらと、おうちへ戻ったのでした。

【14】

みづきとあまの、再会する。

あまの 『桃太郎』やる人、この指とまれ。

あんな…。

あまの 『桃太郎』やる人、この指とまれ。

みづき いまならやれるわ。

ちんまり戦車にミンチにされた、私の左足のお返しよ。

イマジネーションの弾丸であなたの頭を吹き飛ばしてやる。

みづき、あまのに銃（指）を突きつける。

あまの 『桃太郎』やる人、この指とまれ。

…。

みづき、虚空に向かって弾丸を放つ。

みづき …やるわよ。わたしは、おばあさんをやるわ。

あまの 僕、鬼退治に行ってくる。

みつぎ つくって、あげるわ。きびだんご。

【15】

いぞう

こどもの僕が言うのもなんだが、こどものイマジネーションは恐ろしいです。

『金太郎』をやったこどもたちは筋肉が発達し、

『ピーターパン』をやったこどもたちは空をとべるようになり、そして『浦島太郎』をやったこどもたちは、

海をすいすい泳ぎ回り：

二度と帰ってこなかった。

死んじやった？ 海の底に沈んじやった？

ひかる

「僕の名前は浦島太郎」

何万人というこどもたちがそう叫びながら

亀にまたがり海に沈んで行った。

でも死んでないよ。

あまの

え？

ひかる

浦島太郎は竜宮城へ行ったんだよ。

七百年たったらみんな帰ってくるよ。

玉手箱をお土産に。

ひかる

七百年…か。

いぞう

その時まで、この国が、この星が、残っているかはわからない。

せなこ

が、あまのじゅんや君はそう言っていたよ。

みつぎ

この頃にはもう話がマトモに通じなくなってたよね。

せなこ

あまのじゅんや君のイマジネーションは、

みつぎ

とどまることなく成長していったのね。

きよし

…って、きよし。何してんの？

きよしですが、回想シーンの準備をしている。

きよし

一方その頃、しようじきよしは、トラックで郊外に運ばれていた。

せなこ

…いや、あんたの回想シーンはいらさないわよ。

いぞう

テンポよく先にいこうぜ。

きよし

一方その頃、しようじきよしは、トラックで郊外に運ばれていた。

せなこ

あ、だめだこの人、やる気ね。

きよし

一方その頃、しようじきよしは、トラックで郊外に運ばれていた。

きよし

そこに行けば、他のこどもたち、つまり、

きよし

いろんなお友達に会えると聞かされていた。

きよし

現場についた、しかし、

【16】

一同　こどもたちなんて、どこにもいない。
せなこ　深い森があるだけだ。
いぞう　いろんな形の木が立ち並び
きよし　こどもたちなんて、どこにもいない。
みづき　「おーいおーい」と叫んでみても、
あまの　返事はちつとも返ってこない。
せなこ　深い森があるだけだ。
いぞう　いろんな形の木が立ち並び
きよし　こどもたちなんて、どこにもいない。
ひかる　これは困った。どうしよう。

きよし　しーんと静まり返った深い森の中を、
僕はひたすら歩き続けた。
まだ見ぬこどもたちの姿を探して。
「おーいおーい」と叫んでみても、
返事はちつとも返ってこない。

一同　グー
ひかる　とお腹が鳴り出した。
せなこ　おやつの間か。
いぞう　いや違う。
みづき　しかし
一同　グー
ひかる　とお腹が鳴り出した。

きよし　ポケットの中にはドーナツがみつつ。
民生委員のおばさんからもらったやつだ。
お友達になつてくれる子に
あげようと思っていたのに、

一同　グー
ひかる　とお腹が鳴り出した。
きよし　こうなったら
一人で食べてしまおうか。
いや、聞いてみよう。
出ておいでよ。一緒にドーナツを食べようよ。

みづき　と叫んでみても、
あまの　返事はちつとも返ってこない。
せなこ　いろんな形の木が立ち並び
ひかる　お友達は、だーれもいない。

いぞう 僕はがっかり。
きよし 近くにあった高い木の下に座り込んだ。
一同 どうだろう。
きよし 「ドーナツなのかい？」
一同 「ドーナツなのかい？」
きよし 木の上の方から声がする。
きよし 「ドーナツなのかい？」
一同 ああ、そうか、木の上に隠れていたんだね。
きよし 出たおいでよ。一緒にドーナツを食べようよ。
きよし 嬉しくなった僕はドーナツをポケットから出す。
きよし その瞬間、目の前にはあったはずの高い木は、
きよし すーっかり消えて、無くなっていた。
きよし どういうことだ？ どういうことだ？
きよし と見回すと、いつからいたのだろう、
きよし ひとりの男の子が、こちらを見て
きよし にやにや笑っている。

いぞう 「にやにや。ドーナツおくれ」
きよし 君が隠れていた高い木は
いぞう どこに消えちゃったんだい？
きよし 「何を言ってるんだい。あの高い木は僕だったのさ」
いぞう え？
きよし 「ここにあるいろーんな形の木は、みんな、
きよし 僕たちが変身した姿だよ」
きよし 変身？
きよし 「変身」

きよし ここのごどもたちは皆、変身？できるのかい？
いぞう 「そうだよ。ドーナツおくれよ」
きよし 気がつくと、僕のまわりにはあった森は、
きよし すーっかり消えて無くなり、そこには、
きよし 広い原っぱと、数えきれないほどたくさんの子供達が
きよし ずらーっと並んでいた。
きよし 「いけないんだぞ。勝手にやめちゃいけないんだぞ」
きよし 「だって食べたいんだもん。ドーナツ」
きよし 「さもありません」
きよし 「さあドーナツおくれ」
きよし 僕のお友達になっておくれ。
きよし 「なってやってもいいよ」
きよし はい、どうぞ。
きよし 「やった。ドーナツだ」
きよし やった。お友達だ。
いぞう 「いただきまーす。あーん」

突然、おとなたちが現れる。

一同 「おやおや、おやつ時間が守れない子は

いけないねえ。いけないねえ」

きよし どこからやってきたのだろう。
おとなたちは、その男の子の頭を掴むと、
大きなカッターを取り出して首から下をちよん切った。

男の子の血しぶきが舞台上を舞う。

きよし 男の子の顔はドーナツを食べようとした

「あーん」の笑顔のまんま、

カラダはぐしゃっと横になり、

右手にすっかりドーナツ。

そして真っ赤な、真っ赤な血。

一同 「死んじゃった、死んじゃった。
ドーナツ食べたら死んじゃった」

きよし こどもたちの方を振り返った。
けど、どこにもいない。

深い森があるだけだ。

いろんな形の木が立ち並び

こどもたちなんて、どこにもいない。

みんな木に変身しちまったのか？

一同 「おやおや、おやつ時間が守れない子は

いけないねえ。いけないねえ」

おとなたちが僕をみつめる。

大きなカッターをふりあげて：

いや僕はただ、お友達にドーナツをあげただけで、
食べようなんて思っていないせん。

一同
グー。

ひかる とお腹が鳴り出した。

せなこ 「おやおや、おやつ時間が守れない子は

いけないねえ。いけないねえ」

僕はひたすら走り続けた。

しーんと静まり返った深い森の中を、

おとなたちは大きなカッターを振り回しながら追いかけてくる。

助けて。助けて。このままじゃ首をちよん切られる。

いぞう　　そうだ。僕も変身すれば。
みづき　　僕もいろんな形の木に変身すれば、
あまの　　隠れられるんじゃないか。
ひかる　　さあ今こそ
一同　　変身っ。

きよし

しかし、うまくできない。
「おいおい、こどもたち。
どうなったら君たちのように木に変身できるんだい
と叫んでみても
返事はちっとも返ってこない。
そりやそうや。あのジャリども木になつとるんや。
ワイの問いかけにポンポン返事をするわけがないんや。
木が…木が…木が…
そうか、木がしゃべるわけがないんだ。
木が走るわけがないんだ。
僕は逃げ回るのをやめ、ぴたり
喋るのをやめ、きゅっ
大きく手を広げた。

僕は木だ。僕は木だ。
僕の頭の中にある、木のイメージを
最大限まで増幅させた。

やがてズボリ。右足が地面に埋まる。
見ると右足は、木の根っこになっていた。
そしてズボリ。左足も地面に埋まる。
こちらも根っこになっている。

お腹はめりめり、木の幹に
腕はキシキシ、木の枝に
あとは頭だ。肝心の首だ。
早く、変身するんだ僕。

一同

「いけないねえ。いけないねえ」
「いけないねえ。いけないねえ」

きよし

大きなカッターが振り下ろされた。
その時、僕の頭は、
お星様になった。
これは…クリスマスツリー。
父さんとの…最後の思い出。

【17】

あまの　なんだこの、キラキラした木？

きよし　クリスマスツリーだよ？

あまの　クリスマスがわからないのか？

きよし　もしかしたら僕よりも、複雑な家庭環境なのかもな。

あまの　そうかもね。僕の父さんは、死んじゃったんだ。

きよし　シンパシー。アイル・シンパシー。

あまの　僕の父さんも、交通事故で死んじゃったんだ。

きよし　僕の父さんは、毒蛇にかまれて死んじゃったんだ。

あまの　ん？

あまの　母さんは伯父さんと再婚したんだ。

きよし　だがしかし実際は、我が父上を殺めし者こそ、かの伯父貴。

あまの　やつは私から父の命と母の純潔、

きよし　そしてデンマークの王位まで奪い取った。

あまの　ちよっと待って。それ絶対、君の話じゃないよね。

きよし　デンマークの「ハムレット」。

あまの　あ、ほら違う。

ひかる　こんな、あまのじゅんや君の私生活は謎に満ちていた。

あまの　住んでいたのは公営団地の一室だが、

きよし　両親はいつからか行方不明。

あまの　部屋を借りてる名義もめちやくちゃ、

きよし　あまのじゅんやに至っては、戸籍も無かった。

あまの　まったく…どんな親なんだ。

あまの　僕のママは「かもめ」なんだよ。

ひかる　急に語り出した。

あまの　僕のママは「かもめ」なんだよ。

あまの　私は「かもめ」。私は「かもめ」。

あまの　いつもそう言っていたからね。

あまの　君の名前は。

あまの　僕の名前は…あまのじゅんや君。

あまの　あれっ？

あまの　お待たせしました。お待たせしました。

あまの　いよいよ、あまのじゅんや君が

あまの　あまのじゅんや君自身のことを語り出したわ。

あまの　さあ聞きましょう。

あまの　でも気をつけな、

あまの　きつとほとんどがデタラメなのだから。

あまの　きよし

あまの　いぞう

あまの　みづき

あまの　ひかる

あまの　せなこ

あまの　一同

あまの　ひかる

あまの　せなこ

あまの　みづき

あまの　いぞう

あまの　きよし

【18】

あまの 僕の初めての記憶は「戦争ごっこ」だった。武器も戦争も人の死も何の意味もわからなかった僕は、見よう見真似で、見ようとし真似た。

一同 バンバンバン。
あまの みんなママに怒られた。
一同 バンバンバン。
みづき 「やめなさい」
一同 バンバンバン。
いぞう 「静かにしなさい」
一同 バンバンバン。
ひかる 「恥ずかしいから」
一同 バンバンバン。
せなこ 「オモチャがほしいのね。ワガママ言わないの」
一同 バンバンバン。

あまの みんなママに怒られた。
一同 バンバンバン。
あまの 僕のママはどんな風に怒るんだろう。ママ。
一同 バンバンバン。

あまのの身体にママが宿る。

あまの 「やめて…おろして…銃をおろして…」
僕は銃を降ろした。そしたらママは体当たり。
僕はフローリングの床に頭しこたま打ちつけた。
「殺す気なの？あんたはママを殺す気なの？」
違うよ。ママがどんな風に怒るんだろうと思って。
「どんな風に？ しっかりと怒ってあげるわ。」
これは人にむけちゃいけないの。死んじやったらどうするの？
死なないよ。これじゃ死なないよ。バン。
ママ…？ママ？ママは気を失った。
目が覚めるとママはふたたび体当たり。
僕はフローリングの床に頭しこたまうちつけた。
「殺す気なの？あんたはママを殺す気なの？」
違うよ。これじゃ死なないってことを試したんだ。
「試した？弾がたまたま出なかっただけ。」
死んじやったらどうするの。
死んじやったらどうするの。ほらね。
だから…死なないよ。バン。ほらね。

「わかったわ。今からママが、あなたにとっても大切なことを教えてあげる」
ママはそう言うと、ベランダに

「あそこのベンチにおじいさんとおばあさんがいるのは見える？」
見える。

「誰？」

かねださん。

「そう金田さんよ。ご近所さん。

私たち家族にとっても優しくしてくれた恩人よ。

お散歩かしら。ひなたぼっこかしら。

仲良くお話しているわ」

でもママは、あなたにとっても大切なことを教えられるなら、

このママは、魔法の言葉を唱えるわ。

魔法の言葉。：“死ね”」

あまの、指先から弾丸を放つ。

きよし

これは全部、あまのじゅんや君本人が語ったことなので、
多少のフィクションが混ざっているかもしれない。

あ、いや、もしかしたら、丸々ウソかも。

ただ実際、金田という老夫婦は

団地のベンチで何者かに銃殺されている。

あまの

「さあ、やってごらんなさい。

もう一度、ママにむかって撃ちなさい。

魔法の言葉を唱えるの。」

やだよ。

「いやねえ。何がいやなんだよ。」

こわいよ

「何がこわいんだよ」

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。

「うんうんうんうんうん、

何かがごめんなさいなんだよ。」

できないよ。

「さっきはできただろ。さっきはできただろ。

さっきできたもんがどうしてできねえんだよ。

何も考えずに、へらへら撃ってんじやねえよ。

バン」

僕は気を失った。

あまの

僕の最後の記憶は公営団地の屋上だ。

「私のかもめ」「私のかもめ」と繰り返しながらママは、

僕らが惨めな生活を送っていた

その公営団地の屋上から飛び降りようとしていた。

すぐにでも駆け寄り、助けなきやと思ったが、

パパに掴まれていた僕には、何もできない。

何をするんだよ、パパ。

「これはね、羽交い締めだよ。」

そうか。この体勢のことは「はがいじめ」というのか。

ひとつ賢くなった僕は

「私のかもめ」「私のかもめ」と繰り返しながら

公営団地の屋上から飛び降りようとしているママに向かって叫ぶ。

ママ。あなたはかもめじゃない。僕の母親だ、母さんだ。

三十路も半ばに差し掛かり、得意料理はナポリタン。

家族3人分のスパゲッティナポリタンを作るのに

トマトケチャップを丸々一本使ったあげく、

隠し味に白味噌を入れるような、そんな女だよ。

平々凡々な団地妻だ。

しかし、僕の声はママを「かもめ」からママに戻す事はなかった。

「私のかもめ」「私のかもめ」と繰り返しながら、

ママはかもめとして公営団地の屋上から飛び降りた。

ぐしゃり、と大きな音が聞こえた。

が、これは幻聴です。

ママが落ちたであろう場所を見ても、ママの身体はどこにもない。

どうして？

パパが僕をおさえながら、もとい

僕をはがいじめ、しながらつぶやく。

「母さんは、かもめになって、飛び立っていったんだ」

何を言ってるんだこの男。

毎日毎日、安い塗料で看板を書いているんだ。

トルエンとシンナーにやられて、いよいよおかしくなったらしい。

しかし事実、ママの身体はどこにもない。

どうして？

「父さんは舞台演出家になるぞ」
「パパはそう言った。」
「母さんはかもめになって飛び立った
父さんは演出家になって、向こう側への扉を開く。
さて、息子よ。お前は一体、何になる？」

何になる？何になる？
どうやら何にでもなれるらしい。
その日、僕はあまのじゅんや君をやめ
あまのじゅんや君をやめ、
まずは、わかりやすい、「桃太郎」になってみたんだ。

【20】

きよし
あまのじゅんや君の母親は、女優を夢見る専業主婦だった。
父親は看板屋を営みながら、副業で舞台美術家をやり、
舞台演出家を志していたのだ。

せなこ
いぞう
みづき
きよし
ひかる
きよし
そんな二人から生まれたのがあまのじゅんやだったってことか。
でもそんな情報どこから手に入れたの？
：あ、これは100パーセント。僕の創作だよ。
は？ え？ ウソかよ。
ウソだよ。
でも補足しないとさ。
物語がほころんじやうからさ。

ひかる
きよし
やっぱりお前は、劇作家きどりがすぎる。
劇作家じゃないよ。
そしてここからは創作じゃない。

イメージションが立派に成長し
僕たちは再び集まった。

「桃太郎やる人この指とまれ」と
指を突き立てる彼のもとに。

こうして“かき組”は結成された。
得意なオシバイは『桃太郎』。
それを最強の武器にして、僕らは戦場に送られた。
これは僕たちの物語。あまのじゅんや君と、僕たちの物語だ。

さあ、あと数ページだ頑張ろう。
鬼が島に出発だ。

【21】

一同 「地図をばさりと広げたが、
「鬼が島」が見つからない。

あまの 舟の準備はできている。
犬もいる。猿も、キジもいる。
鬼退治の準備は万端、整っているが肝心の
「鬼が島」が見つからない。

一同 どこだ、どこだ、どこにある。
あまの 鬼が島は、どこにある。

きよし 鬼が島に桃太郎が行くんじゃなくて
桃太郎が行った場所が鬼が島なんだと。

あまの なるほど、たしかに、それは道理だ。
ならば日本の桃太郎。
犬・猿・キジを従えて、
地球の果ての果てまでも、
行ってみせよう鬼退治

一同 砂漠、ジャングル、雪景色。
あらゆる場所に行ってみた。

あまの この桃太郎が上陸すれば、
そこはどこだって鬼が島。
そこで出会ったやつらは皆、
問答無用で鬼となる。

一同 鬼だ。鬼だ。鬼なんだ。
手加減しないぞ、鬼退治。

あまの さあさあ、かかれ。殺せや、殺せ。
一同 犬は噛み付き、
猿はひっかき、
キジは目玉をほじくった。
鬼退治だよ。鬼退治。

あまの やがて僕たちは取り返す。鬼が奪った宝物
宝物とはなんだろう。
みづき たとえば、この鬼が島には
油田と天然ガスと
ウラン濃縮工場があるんだと。

あまの 何のことやらわからない。
でも、鬼がもっていたものだ。
宝物には違いないだろうし、きっとそれは、
本来、僕たちが持っているべきものだろう。

一同 鬼だ、鬼だ。鬼なんだ。
手加減しないぞ、鬼退治。

あまの さあさあ、かかれ。殺せや、殺せ。
一同 犬は噛み付き、
猿はひっかき、
キジは目玉をほじくった。
鬼退治だよ。鬼退治。

あまの 鬼もいろんな鬼がいる。
金色の髪。黒い肌。青い瞳に高い鼻。
中には、僕たちと同じような姿形をした鬼もいたが、

一同 鬼だ、鬼だ。鬼なんだ。
手加減しないぞ、鬼退治。

あまの さあさあ、かかれ。殺せや、殺せ。
一同 犬は噛み付き、
猿はひっかき、
キジは目玉をほじくった。
鬼退治だよ。鬼退治。

あまの まだ行った事の無い場所は、
そこはどこだって「鬼が島」、

一同 鬼退治はまだ終わらない。
あまの すべての鬼を退治するまで。

一同 鬼退治はまだ終わらない。

【22】

あまの やっぱり僕は、やっぱり僕は、
みづき 「桃太郎」ってこといいんだよね？
いいわ。

あんたのイマジネーションに潰された私の左足は
もう二度と帰ってこない。
あんたも、もう二度と帰ってこないでね。
そのイマジネーションの世界から。

大丈夫。大丈夫よ。

あなたを決して、ひとりにはしないわ。
ありがとう。

ウソつき、あまの、あまのじゃく。

ウソつきじゃない。

おかえり。部隊長「あまの・じゅんや」くん。

「ひより・みづき」

「なな・ひかる」

「しりた・いぞう」

「おま・せなこ」

そして「しょうじ・きよし」。

以上6名。“かき組”でした。

ひかる さてさて、ジャングルに隠れたゲリラとの
血を血で洗う戦争が僕らをお待ちですよ
せなこ もうやめない？きつとおとなたち、
私たちのことなんか見捨ててるよ。

『桃太郎』なんて、つまらない話やめてさ、

もっと楽しい話をしましょうよ。例えば
『シンデレラ』とか？

『おおきなかぶ』とか？

『はだかの王様』とか？

『アリス・イン・ワンダーランド』とか？

あまのじゅんや君。

はい。

どうだい？

あまの ：『桃太郎』やる人、この指止まれ。

きよし 結局、桃太郎だ。

いぞう 準備しよう。

ひかる 遅れるな。

せなこ 『シンデレラ』がよかったわ。

みづき 『シンデレラ』。諦めずに夢見ていれば
いつかなれるわよ。お姫様。

せなこ
あまの
……
『桃太郎』やる人、この指とまれ。

一同、あまのの指に集う。
爆撃音が鳴り響く。

【23】

きよし
今夜、祖国から遠く離れたこの密林には
殺戮の嵐が吹き荒れ、多くの血が流されるだろう。
僕らは『桃太郎』という名の
イマジネーションの装甲車へと乗り込み
殺した鬼どもの屍の上を
脇目も振らずに突き進む。

あまの
僕は、誰の命が奪われようとも
どんな国が潰れようとも
この世界が滅びようとも
僕が、僕だけが
「桃太郎」でいられるならそれで幸せさ。
そこには
桃から生まれる感動。
きびだんごのぬくもり
犬・猿・キジとの冒険。
鬼退治の興奮。
ありとあらゆる喜びが詰まっている。

きよし
うん。でも、
僕らはまだ知らないかもしれないよ。
人を愛し、
命を育み、
この世に生きる喜びを。
あまの
知りたくもない。
きよし
知りたくもないか。
あまの
知りたくもないし、知らなくていいんだよ。

あんな腐った世界になんか
戻る事無いんだよ。
帰らぬ母さんを待ち続ける
公営団地のベランダで
赤の他人からすり鉢で
何度も何度も殴られる。

あんな腐った世界になんて
戻る事無いんだよ。
いつでも呼び出せオオカミを。
空に向かって大ボラを吹け。

イマジネーションで完全に武装された
僕らの進軍、誰が止められるんだい。

『桃太郎』やるひと、この指とまれ。

きよし

さよなら、僕らの物語。
始めよう、僕らの『桃太郎』。

応答、願う…わけがない。

これが最後の通信だ。

もしも、あなたが『桃太郎』

やるなら、集うな、僕らの指に。

「この指止まれ」と勇気を出して

震えるその指、突き立てて

始めろ、あなたの『桃太郎』。

見向きもしないやつらには

その指突き出し「バンバンバン」

ぶつけろ、あなたの物語。

あなた一人がいなくなつて、

少しの歪みも見せないこの世界、

その指先で変えるんだ。

あまの

拍手は、どうかご容赦ください。

拍手を浴びれば我ら一同、

伏して御礼申し上げ

この場から消えねばなりません。

拍手は、どうかご容赦ください。

それは、すなわち閉幕の合図。

現実という限りある世界へ

我らを誘う呪いの儀式。

できればどうか、このままで、

虚構の世界で、いつまでも

終わらぬ夢を、永遠に。

きよし

彼はそう言っていたが
僕はもう帰れたかった。
何しろ終わりの時間なんだ。
家では僕の両親が
僕の帰りを待っている。

あれ？ ……そうだよ。

父さんは交通事故で死んじゃいないし、
母さんはお仕事に行ったりしてないし、
うちにはベランダもなけりや、
すり鉢なんて、置いてあるわけないだろ。

忘れてもらっちゃ困るなあ。
僕は「オオカミ少年」だ。

誰か一人でも、僕を信じているならば
誰も、一人も、僕を信じなくなるその日まで
大きな声で叫び続けるさ。

お逃げください、お客様。
お逃げください、お客様。

「オオカミが出たぞ」

焼夷弾が降り注ぐ中、俳優たちが舞台上から立ち去る。

了

※ 上演を希望する際は、有料・無料に関わらず、

必ず劇団までご連絡いただき、戯曲使用の許諾をお受けください。